

議題 1

青少年交流事業の開催結果について（報告）

- | | | |
|---|--|----|
| 1 | 「青少年国際平和未来会議 2018（第 14 回）」開催結果 | 3 |
| 2 | 「2018 広島市・大邱広域市青少年交流事業（第 17 回）」開催結果 | 7 |
| 3 | 「平成 30 年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第 41 回）」開催結果 | 10 |

「青少年国際平和未来会議2018（第14回）」開催結果

1 目的

広島市の姉妹・友好都市等の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深めるとともに、広く世界の国々の青少年に核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図る。

2 主催

青少年国際平和未来会議2018 実行委員会

（構成：一般社団法人広島国際青少年協会、広島市教育委員会、広島市ほか）

3 事業期間

平成30年（2018年）8月20日（月）～8月26日（日）（6泊7日）

4 開催場所

ハノーバー市内（ドイツ）

5 参加者

広島市 7名〔指導者2名 青少年5名（高校生2名、大学生3名）〕

ハノーバー市 13名〔指導者5名 青少年8名（高校生・成人）〕

6 主な日程

日 時	内 容	宿 泊
8月20日（月）	終日 広島空港→羽田空港→ミュンヘン→ハノーバー市	空港ホテル
8月21日（火）	午前 ハノーバー広島友好協会訪問 午後 開会式 プレゼン「IYCPFについて」、「ハノーバー市について」 ホストファミリー対面式・交流	ホームステイ
8月22日（水）	午前 ハノーバー副市長訪問、市庁舎見学 午後 グループ討議、市内見学、交流	ホームステイ
8月23日（木）	午前 市内見学 午後 グループ討議、交流	ホームステイ
8月24日（金）	午前 グループ討議 午後 グループ討議 閉会式、成果発表、フェアウェルパーティ	市内ホテル
8月25日（土）	午前 エギディエン教会（戦跡訪問・献花）、鯉のぼり署名 午後 ハノーバー市→フランクフルト→	機内泊
8月26日（日）	終日 羽田空港→広島空港着	

7 研修会等

- ①第1回研修会 6月17日（日） ②第2回研修会 7月15日（日） ③第3回研修会 8月5日（日）
 ④第4回研修会 8月12日（日） ⑤広島市長訪問 8月16日（木） ⑥事後研修会 9月23日（日）
 ⑦事業報告会 11月18日（日）「国際フェスタ2018」にて（広島国際会議場）

8 成果

若者による世界平和の促進について、また今後の青少年国際平和未来会議のあり方について、どのようにすれば若者が主体的に参加し、活動することができるか、ハノーバー市の青少年と共に深く議論することができた。この議論の結果も踏まえつつ、今後のあり方について検討する。

参加青少年は、お互いの価値観や立場の違いを認め合いながら、しっかりと議論を重ね、ホームステイ等の交流を通して次第にかけがえのない仲間として互いに友情や絆を築いた。各参加者はハノーバー市の青少年と共に SNS 等を利用して、今後も事後活動を推進し連携していく。

9 参加者の感想

- ・ 人数が少なかった分、一人一人が発言できて、内容が深まっていったと感じている。意見の共有についても時間がかからなかったし、参加者の集中力が続いていたと思う。例年であれば人数が多すぎてグループの中でも数名しか発言できない状態であったが、少人数制でディスカッションの時間がしっかりと取れたことが、理想を語り合うだけに留まらず、具体的で現実的な部分まで話を追求していくことができて良かった。
- ・ グループでディスカッションだけではなく、歴史的な場所へ一緒に出かけたり、ハノーバー市でできないようなフィールドワークで活動したりすることができれば、問題・課題を意識しながら議論が進み、モチベーションも上がり、さらに良かったのではないかなと思う。
- ・ ハノーバーの参加者はとても論理的な思考をするんだと感じた。何でも「良いと思う」で終わらせるのではなく、なぜ良いのかを語ってくれる。現実的で良い議論ができたと思う。また、色んな大人がコメントしたり、意見を入れてくれる事によって、さらに現実的な議論につながっていったと思う。
- ・ 国籍や世代を越えて色んな人と交流ができたのがとても良かったのと、ドイツ人目線で色んな事について考える事ができたし、街の歴史を現地に赴く事で色々と勉強することができたのは私にとってとても大きな事であった。
- ・ 今まで発表するような気質でもなかったが、今回参加することで成長することができたと思う。もう少し長く滞在していたかった。
- ・ ジュニア国際フォーラムに参加したことがあり、大きな部屋いっぱいくらいになるまで参加者がいたのだが、その時は、色んな意見が出すぎて、全くまとまらないという印象をもった。今回は、少人数ということもあり、円滑に議論が進んでいったので良かったと思った。
- ・ ディスカッションのトピックはとても興味深かった。日本人の参加者がシャイな人がいることで、意見をまとめたり、発表するときに苦労したが、結果的にうまく行って良かった。
- ・ 人数的な規模がちょうどよかった。すべてのメンバーが話す事ができてよかった。友情が生まれてよかった。
- ・ 楽しめる時間や文化的な交流がもう少しあっても良かったのではないかなと思った。

10 事業後の取組

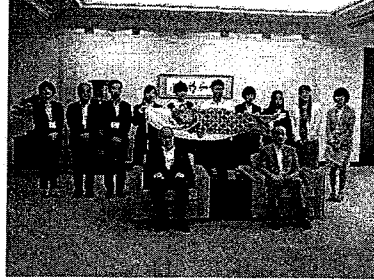
9月23日(日)には、事後研修として振り返りの場を設け、反省点を共有した。また、今後の事後活動について計画を立て、スカイプやSNS等を通してハノーバー市の参加者と共に、自国での活動を紹介し合う取組や、今後の活動について協議するなどの取組を進めていく。

また、11月18日(日)の「国際フェスタ2018」において事業報告会を行うとともに、報告会資料や参加者が書いた感想を広島市ホームページで公開する。

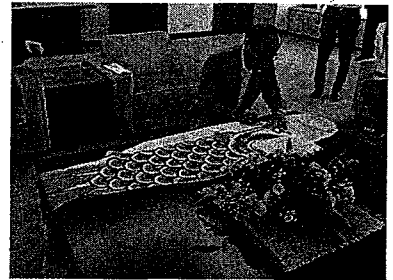
《活動の様子》



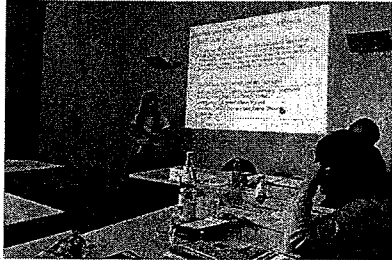
6/17(日) 第1回事前研修会



8/16(木) 市長訪問



8/16(木) 市長による鯉のぼり署名



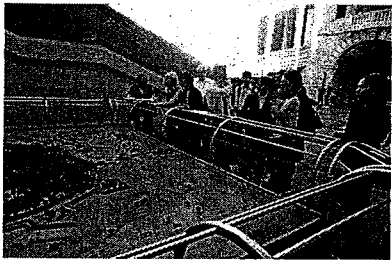
8/21(火) 参加者による IYCPF 解説



8/21(火) 自己紹介



8/22(水) ハノーバー市議会室



8/22(水) 市庁舎見学



8/22(水) ハノーバー副市長表敬訪問



8/22(水) グループディスカッション



8/23(木) グループ討議発表準備



8/24(金) グループ討議意見交流発表



8/25(土) 戦跡訪問・献花・鯉のぼり署名

Agenda for the Youth to Promote World Peace

(Approved Version)

We, the members of International Youth Conference for Peace in the Future 2018 in Hannover, Germany, have made preserving world peace as our goal. After a long discussion, we have compiled the following results.

私たち、青少年国際未来会議 2018 のメンバーは、ドイツハノーバー市において世界平和の維持を目標に設定した。長時間の議論を通して、私たちは以下の結論に至った。

In order to find the solutions we thought it necessary to comprehend the reasons why the world is still in an unstable state. Therefore we decided to try to get to the bottom of World Danger. The results are as follows:

解決策を見つけるために私たちは、世界が依然として不安定な場所であることの原因を理解する必要があると考えた。そこで、私たちは、世界の危険の根源を探求することを決断した。その結果が以下である。

- prejudices
偏見
- fear/distrust towards the unknown (xenophobia)
知らないものに対する恐怖心／不信感 (外国人嫌悪)
- not enough media coverage
報道の乏しさ

In the light of these results we made the following suggestions on how to fight against it in the future:

これらの結果に基づいて私たちは、今後、どのようにそれらの問題に対抗するのかについて、以下の通り提案する。

- have contact
meet or converse with foreigners you have a controversial image of
making your own experiences
go abroad
接点を持つこと
人々がさまざまな印象をもつ外国の人々と、会うまたは対話をする
自分自身で経験する
海外へいく
- stay open-minded
寛容さを保つ
- educate ourselves and others
indirectly: forced through school, induce interest to get bigger audience
directly: debate with your peers if needed, teach the next generation
自分自身と他者を教育する
間接的教育：学校を通して、多くの人に興味を持たせる
直接的教育：必要であれば、仲間たちと議論し、続く世代を教育する

August 23rd, 2018

2018年8月23日

「2018 広島市・大邱広域市青少年交流事業（第 17 回）」開催結果

1 目的

広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市から青少年を受け入れ、生活を共にしながら国際交流を行うことにより、本市と大邱広域市の青少年の相互の友情を深めるとともに、青少年の世界平和への意識を高める。

2 主催

2018 広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会

(構成：広島県日韓親善協会、広島市教育委員会、広島ユネスコ協会、NPO 法人友愛アカデミー)

3 交流期間

平成 30 年 (2018 年) 7 月 26 日 (木) ～7 月 30 日 (月) (4 泊 5 日)

4 開催場所

広島市

5 参加者

広島市 27 名 (指導者 (通訳含む) 3 名、青少年 22 名 (中学生 5 名、高校生 17 名)
 通訳ボランティア 2 名、(夏祭り運営ボランティア 40 名)
 大邱広域市 24 名 (指導者 (通訳含む) 4 名、青少年 20 名 (中学生 11 名、高校生 9 名))

6 主な日程

(1) 事前研修 ①6月10日(日)、②6月24日(日)、③7月15日(日)、④7月22日(日)
 ⑤【宿泊研修】7月25日(水)～26日(木)

(2) 交流期間 7月26日(木)～7月30日(月)

日にち		内容	宿泊
7/26(木)	午前	大邱広域市青少年交流団到着 (広島空港)	広島国際青年会館
	午後	開会行事 (開会式、平和学習会【献花、平和記念資料館見学等】、夕食会)	
7/27(金)	午前	学校訪問 (クラブ活動体験)、お好み焼体験	広島国際青年会館
	午後	夏祭り (浴衣で縁日体験)	
7/28(土)	午前	宮島訪問 (班別活動)	ホームステイ
	午後	ホームステイ	
7/29(日)	午前	ホームステイ	広島国際青年会館
	午後	意見交換、さよならパーティー	
7/30(月)	午前	大邱広域市青少年交流団帰国見送り、(広島空港)	
	午後		

(3) 事後研修会 ①8月6日(日)、②9月30日(日) ほか

(4) 事業報告会 11月18日(日) 「国際フェスタ2018」にて (広島国際会議場)

7 成果

事前研修では、広島を案内するために、広島の歴史や原爆被害の概要を学び、班別行動のコースなども話し合うなど、お互いにアイデアを出しながら準備を行った。また、韓国語を学んだり、韓国や大邱広域市の歴史や習慣などを聞き、韓国、大邱広域市についての理解を深めた。韓国人原爆犠牲者慰霊碑や原爆死没者慰霊碑については、全員が韓国語で説明できるようにパート分けし、お互いに教え合ったり、歓迎夕食会などで披露する出し物の練習を自主的に行うなど事前研修の回を重ねる毎にチームワークを深め、広島市の代表であるという自覚を持って熱心に取り組んだ。

交流期間中は、使い慣れない韓国語や身振り手振りで、大邱広域市の参加者と積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が多く見られ、お互いの国の文化や歴史、生活習慣や考え方について理解を深め、グローバルな視野を広げる契機となり、日韓友好の架け橋になりたいとの意識を醸成することができた。

夏祭りでは多くの中学生から大人までの幅広い年齢の多くの方にボランティアとして屋台等の運営に参加していただき、大邱広域市の指導者からは「自分たちのために、こんなにたくさんの方が手伝ってくださり、広島の人々の心の中にもった歓迎に感謝の気持ちで一杯だ。広島の人々の心の温かさを感じた。」との言葉があり、本事業に参加した青少年だけでなく、市民レベルでの友好関係も深めることができた。

さらに、交流プログラムの中で広島の青少年と一緒に平和のメッセージを記した灯籠を、自分たちも流したい、との思いで4名の大邱広域市の青少年が再来広し、8月6日に広島の参加者とともに灯籠を流し、日韓の青少年が平和への思いを共有することができた。

8 参加者の感想

- ・ 自分自身が広島のことをあまり理解していないことがわかり、歴史的背景とエンターテインメント性あるプログラムなど、どう工夫したら大邱の学生に楽しんで広島のことを吸収してもらえるかなど悩んだが、大邱の学生から「広島に来てよかった」「こんなにもう一度来たいと思った都市は初めてだよ」と言われ、大邱と広島の間を深めることができたと感じた。交流を終えてのこれからが重要だと考えるので、私達が、感じたことをそれぞれで伝えていき、単純な友好関係だけでなく関係を創っていきたい。
- ・ 大邱の仲間を迎える準備のために、広島の街のことや原爆について学ぶ中で、これまで受身で知識の乏しい自分を情けなく思った。人に伝えようとする中で、必死で資料にペンを走らせた甲斐もあり、大邱の参加者に喜んでもらう事ができた。言葉では伝わらないパートナーの思いやりや行動力の深さであつという間に距離は縮まり、文化のことや学校のことなど様々な話をする事ができた。似ている部分、全く違う部分が沢山あって、互いを知ることとはとても興味深く、今までに経験したことのない驚きと感動があった。
- ・ 事業を通して、平和についてたくさん考えた。その中で大邱の人と一緒に灯籠を作った時、韓国語で「もう二度と戦争が起きませんように」「平和な世界がずっと続きますように」と書かれていて、広島であった出来事は世界中に知られていて、違う国に住んでいても平和に対する思いはみんな同じなんだと気づかされた。海外の人と平和について共有しあったのは初めてだったので、新しい発見だった。
- ・ 去年の交流では韓国語があまり話せなかったのが、人一倍努力して勉強した結果、韓国語を交えながらヒロシマのことを伝えることができた。また、去年は日韓の文化の相違点しか感じる事ができなかったが、今年は共通点を見つけることができた。
- ・ 今回できた友達は一度限りで終わらせるのではなく、様々なツールを使いながら、気軽に趣味から歴史認識問題まで話せるような友好関係を築いていきたい。
- ・ もっと韓国語や英語を勉強して、言葉の壁をできるだけ少なくすること、相手の文化だけでなく、自分たちの文化についても知っておくことがとても大切だと思った。今後は語学の習得にさらに励み、日本について、広島について、私達の文化について、自分の言葉で語れることができるような人に成長したい。
- ・ これまで経験したことがない貴重な体験ができとても有意義だった。
- ・ 言葉では表現できないくらい楽しかった。広島は私が訪れた都市の中で一番最高の都市だ。

【ホストファミリー（保護者）】

- ・ ホームステイの受け入れは初めてのことで不安でしたが、今は家族全員にとって一生忘れられない思い出となった。私達家族も韓国が身近に、また大切な人達が住む国と思うようになった。

【夏祭り運営ボランティア】

- ・ 選考に漏れて交流事業に参加できないとあきらめていたが、ボランティアとして大邱の人と交流ができ、友だちもできたのでとても楽しかった。韓国語も勉強して、来年は選考されるよう頑張りたい。

9 事業後の取組

8月6日の灯籠流しの様子をライン電話で中継したり、その後もSNS等を使用した参加者同士の交流が継続している。事後研修会においても、SNS等を使用した交流を行うなど、交流を継続していくとともに、引き続き参加者に対して国際交流事業の情報や機会を提供するなど、事後活動の促進に努める。

また、多くの市民に大邱広域市との交流事業を知ってもらい、日韓の友好の輪をさらに広げるために11月18日(日)の「国際フェスタ2018」において事業報告会を行う。

《交流期間の様子》



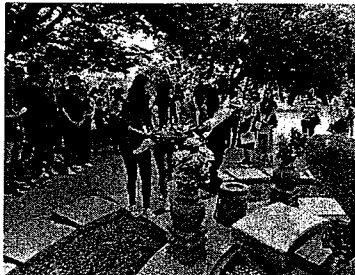
7/25(水) 前日準備 (宿泊研修)



7/26(木) 広島空港で出迎え



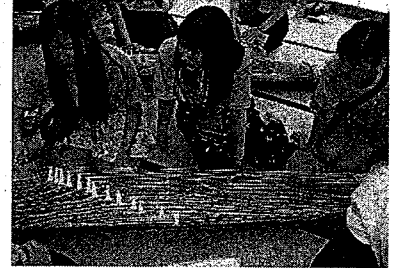
7/26(木) アイスブレイク



7/26(木) 献花 (平和記念公園)



7/26(木) 夕食会 (ダンス披露)



7/27(金) 学校訪問 (部活体験)



7/27(金) お好み焼体験



7/27(金) 夏祭り (盆踊り)



7/27(金) 夏祭り (屋台)



7/28(土) 宮島



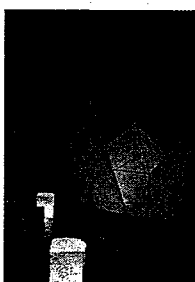
7/29(日) 意見交換



7/29(日) 意見発表



7/29(日) 平和のメッセージ



7/29(日) さよならパーティー



8/6(日) 灯籠流し

「平成 30 年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第 41 回）」開催結果

1 目的

広島・長崎両市の児童生徒が交互に訪問し合い、平和学習を通じて平和意識の高揚を図るとともに、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育む。また、集団生活や体験学習を通じて、友情と親睦を深めるとともに、自主性や社会性を育てる。さらに、青少年リーダーとしての指導力や実践力を養う。

2 主催

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会
(構成：広島市子ども会連合会〔担当：西区子ども会連合会〕、広島市教育委員会)

3 事業期間

平成 30 年 (2018 年) 8 月 18 日 (土) ～8 月 20 日 (月) (2 泊 3 日)

4 開催場所

長崎市内

5 参加者

広島市子ども会連合会 (担当：西区子ども会連合会)
40 名 [指導者 8 名、児童生徒 32 名 (リーダー含む)]
長崎市子ども会育成連合会
44 名 [指導者 18 名、児童生徒 26 名 (リーダー含む)]

6 主な日程

日 時	内 容	宿 泊
8 月 18 日 (土)	入所式、歓迎セレモニー ナイトウォーク	日吉自然の家
8 月 19 日 (日)	長崎市での平和学習 ・原爆落下中心地碑への黙祷・折鶴奉納 ・フィールドワーク (旧浦上天主堂の遺壁、下の川、被爆当時の地層、平和の泉など) ・平和祈念像への献花 ・長崎原爆資料館の見学 ・長崎市青少年ピースボランティアによる被爆の実相学習 ・意見交換会 ・長崎市長表敬 平和のつどい (キャンプファイヤー)	日吉自然の家
8 月 20 日 (月)	お別れ式、解散式	

7 研修会等

結団式・事前研修会 7 月 29 日 (日)

事後研修会 9 月 2 日 (日)

8 成果

長崎市側が用意した平和学習のメニューが、被爆の実相学習や被爆の遺跡を巡るフィールドワークなど、子ども達の心に響く大変有意義な内容であったことと、高校生・大学生による長崎市青少年ピースボランティアが積極的に関わってくれたことで、これまで以上に広島・長崎市の児童生徒が平和学習を通して平和意識を醸成し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育むことができ、また交流も深まった。

参加者は、集団生活や体験学習を通じて、自主性や社会性を培い、青少年リーダーは、指導力や実践力を養うことができた。

9 参加者の感想

- ・ 家に帰ってから、平和について話し合うことができた。どうして世界が平和にならないんだろう、みんなが、世界が平和になることを願っているはずなのになぜ戦争は今も起きているのだろうと考えたり、意見を言ったりしました。(小学5年・女子)
- ・ 僕は、長崎まで行って平和学習をすることで、広島だけでは学べないことを勉強して帰ってくることができました。僕は、広島のことばかり勉強していたけれど、長崎のことも知って、広島と同じように町が破壊されたことが分かりました。(中学1年・男子)
- ・ 長崎の子ども会の人たちとの交流では、住んでいるところはちがいますが、平和を願う気持ちは変わらないことが分かりました。3日間、長崎の人たちとすごして、とても仲良くなることができました。次は、長崎の人たちが広島に来てほしいと思いました。(小学6年・女子)
- ・ 今回、私は、長崎でフィールドワークや資料館見学、平和学習をしてみて、広島だけでなく長崎もつらく苦しい思いをたくさんしたんだと思いました。あらためて戦争はおそろしいものだと思います、もう二度とくり返してはいけないものだと思います。(中学2年・女子)
- ・ 説明してくれた長崎の小学生や中学生は、立派だと思った。私にはとても出来ないことだった。「知る」だけでなく「学び」そして、「伝えられる」ようになりたいと思った。(中学1年・女子)
- ・ この交流を通して感じたことは、広島と長崎のみんなと勉強していくと、より深く、仲もよくなりながら楽しく学べたことです。同じ経験を持つ市同士で学ぶと、同じ思いや心をもっているから、話が通じ合います。初めて知ること、よく分からないことがある時は、いろんな人と話し合っ、理解し合っ勉強できました。(小学5年・女子)
- ・ 本当に平和な世界を創るためには、日本だけが平和になっても意味がないと思いました。私は、すべての人々が平等で、核兵器などないのが本当の平和だと思います。戦争は、人々からたくさん物をうばってしまうものです。世界を平和にするためには、まず私達から行動しなければいけないと思いました。「73年前のことを語り継いでいけるのは、私達しかいない」この3日間で改めて気づきました。これからは少しでも世界が平和になるように努力したいです。(小学6年・女子)
- ・ 今回、平和祈念像を見た時、何か言いたそうにしている気がしました。もしかしたら「このような活動を続けて、核兵器の無い世の中にしてほしい」と言いたかったのかなと思います。だから、全国から集まって平和学習をすると聞いたので、できればそういうのにも参加してみたいと思っています。(小学6年・男子)
- ・ 今回の平和学習では、長崎の人と一緒に「幸せだと感じること」や「今、私たちができること」など沢山のお題について考え、意見を発表しました。最終的には、何枚かの画用紙に自分たちができることを書き、長崎の資料館に展示をし、とてもよい経験になりました。(高校3年・男子)

10 事業後の取組

事業概要や参加者が書いた感想文を「感想文集」として作成し、広島市内の各学区の子ども会や西区内の小・中学校に配付する。

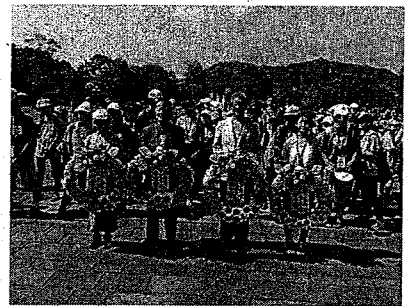
《活動の様子》



8/18 (土) 歓迎セレモニー



8/19 (日) 原爆落下中心碑への折鶴奉納



8/19 (日) 平和祈念像への献花



8/19 (日) フィールドワーク (旧浦上天主堂遺壁・被爆当時の地層)



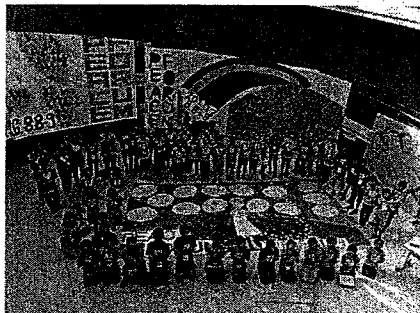
8/19 (日) 長崎原爆資料館の見学



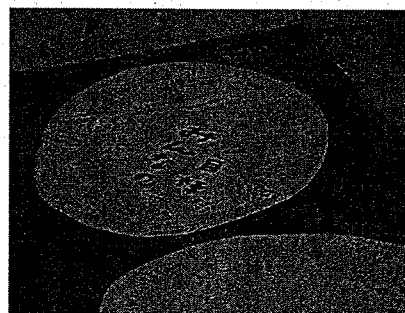
8/19 (日) ピースボランティアによる被爆の実相学習と意見交換



8/19 (日) 長崎市長を囲んで



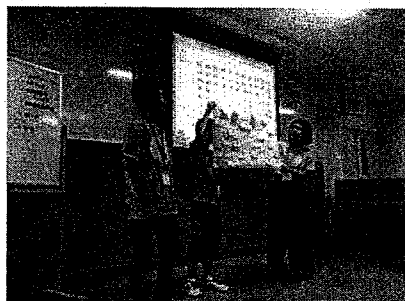
8/19 (日) ピースフォーラムの作品に加えられた意見交換のまとめ



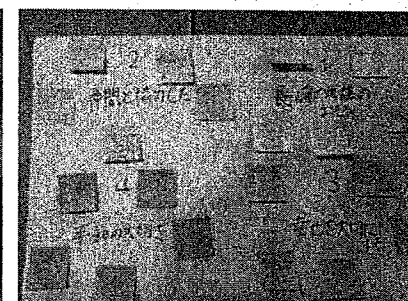
8/19 (日) キャンプファイヤー



9/2 (日) グループ討議 (振り返り)



9/2 (日) 班別発表



9/2 (日) 仲間たちに伝えたいこと